

序

21世紀に入り、世界と日本社会はますます混迷を深め、そして大きな変革を希求されながら、深い霧の中へ突き進んでいる様に見える。社会はこれからどのようになっていくのか、我々はどうすればよいのか、誰にもよく分からないことかもしれないが、やはり我々自身がよく考えなければならないことであろう。

昨今、日本でも我々子孫の将来に関わるような環境汚染事例が報道されるようになった。今回の「環境と地盤探査シンポジウム」でテーマとして取上げた「土壌・地下水の汚染問題」は人々の健康と生命の危険につながる恐れのある極めて深刻な環境問題である。しかし、この土壌と地下水の汚染状況を現在の物理探査技術により調査することは様々な困難があるかもしれない。それでも地中・地下の諸々の難問解決に取り組むことを専業とする物理探査技術者・研究者としてはこの問題を避けて通ることは出来ない。

困難な課題であっても、基礎研究と応用研究の両面から、志と強い意志を持った人々が力を結集して取り組めばそれなりの展望が開けるであろうことを望む。これを機会に特に若い物理探査に係わる技術者・研究者のさらなる奮闘努力を期待する。

今回のシンポジウムでは物理探査学会の外部の研究者・技術者の多くの方々からも大変貴重なご指導と暖かいご支援・ご協力を頂いている。また、当学会の会長からも急な要請にもかかわらず示唆に富んだ特別講演を開陳して頂いた。また、当学会事務局をはじめとして関連学会・協会等には今回のシンポジウムの開催に際して大きなご支援を頂いた。このような多くの方々のご好意に心から厚く感謝申し上げます。

物理探査学会 地盤探査研究会
代表幹事 毎熊 輝記